※令和４年度以降入学生用

学校番号	324

令和５年度　保健体育科

教科	保健体育	科目	体育（柔道）	単位数	1	年次	１年男子
使用教科書	「現代保健体育」　（大修館出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・自己の能力に応じて基礎・基本的な運動技能・体力や筋力を高めよう。
・自他の運動を観察し、分析することで興味・関心を高め、運動の楽しさや喜び、達成感を一緒に味わおう。
・正しい技術を身につけ、相手に対する思いやりを大切にし、格闘技の素晴らしさを体感しよう。

2　学習の到達目標

（１）　伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などを理解するとともに、得意技などを用いた攻防を展開する。
（２）　自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。
（３）　武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとすることなどや、健康・安全を確保する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方について理解している。 ・運動の技術の名称や動作・所作、体力の高め方、「技」の完成度や方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法を理解している。	・知識を活用し、技能向上につなげる。 ・自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取組を工夫できる。 ・運動の合理性を理解し、体力や技能向上を目的にトレーニングを考えることができる。 ・結果や勝敗を受け入れ、自他の技能を客観的に判断できる。 ・運動の合理的な実践を通して、勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現する。 ・学習で得た成果を自ら応用・発展させ、実生活に生かせる。	・武道の学習に主体的に取り組もうとする。 ・自ら進んで運動の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・健康や安全を確保して学習に取り組もうとする。 ・公正・協力・責任・参画などの態度を身に付ける。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元名</th><th rowspan="2">学習内容</th><th rowspan="2">単元（題材）の評価規準</th><th colspan="3">評価方法</th></tr>
<tr><th>知(a)</th><th>思(b)</th><th>主(c)</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>武道（柔道）</td><td>・礼法
・姿勢、組み方
・柔道特有のトレーニング
・受け身
後ろ受け身
（長座→中腰→立位）
横受け身
（中腰→立位）
横受け身（立位）
前回り受け身
（膝付き→立位）
・後受け身・横受け身の評価</td><td rowspan="2">a: 種目の特性に応じた技能やイメージを深めた技術を身につけている。
技術や武道の名称、用語、表現の仕方など、体力の高め方、運動観察の方法を理解している。
b:技を身につけるための運動の行い方のポイントをみつけている。
課題に応じた練習方法を考えることができる。
c: 各種目の楽しさや喜びを味わうことができるように互いの違いや良さを認めあうこと、よい演技を讃えようとすること、マナーやルールを大切にしようとすることや自己責任を果たそうとするなど、健康や安全を確保して、主体的に取り組もうとしている。</td><td>技能観察
技能テスト</td><td>自己観察</td><td>受講態度の観察

振り返りシート</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>武道（柔道）</td><td>・前回り受け身 の評価
・寝技
固め技の攻撃と防御
固め技を使っての上下の攻防
固め技を使っての勝負練習
・立技
組み手と体さばき
「支えつり込み足」
「体落とし」
「大外刈り」
「大腰」の習得
・打ち込み・約束練習等
・乱取り</td><td>技能観察
技能テスト</td><td>自己観察</td><td>受講態度の観察

振り返りシート</td></tr>
</table>

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度